

才能重視で柔軟な教育課程

企業協力で実践的職業教育

海外から日本の教育を再発見するカナダの教育視察ツアー（NPO法人教育研究所主催）が8月6日から14日までの9日間の日程で実施され、弊社が同行取材した。プリティッシュ・ユ・コロンビア州バンクーバー市とその近郊の市の高校や大学などを訪問。移民の多いカナダで実施されている語学や民族理解など国際性を高める多文化共生の教育、主体的な学び・考えるリテラシー教育、インクルージョン教育などの実践について、担当者から話を聞いた。まず、同国の教育システムについてまとめた。



第1回

カナダでは、一人ひとりの才能を重視した柔軟な教育カリキュラムが用意されている。日本の文

科省に当たる連邦レベルの教育省はなく、州や準州政府が教育を管轄している。地域社会に必要な人材を地域で育成する

という地域密着型の教育が実践されていること、インクルージョン教育が当たり前になっていることが特色だ。

小・中・高校段階の特色をみると、児童生徒の自尊心や情緒を育てること

とを重視した教育が行われている。同州では、社会責任と市民意識、社会的、情緒的、知的、身体的

発達が重視されている。情緒的発達や社会的発達が、学業の到達や知的能力、運動能力と同様に重視されているためだ。

全ての休み時間に児童生徒は教室に入らず、天気に関係なく外遊びが義務付けられている。小学校低学年から教員が「な

ぜ」と子どもたちに問いかける教育を徹底している。またインクルージョンと人種差別について徹底的に考えさせる教育が行われている。

中・高学年では、チーム単位のプロジェクト学習があり、調査から発表までの一連の活動が行われている。「バディータ

イム」という高学年児童が低学年児童と1対1で面倒をみる活動がある。9年生までにその後の進路計画を立てることを目

標にしており、そのためのフランニングの時間が設定されている。

選択教科は、やる気のある教員が学校に申請して開設できる。例えば、サーモン稚魚育成やロックバンド、チェス、ホッケー、ウェブデザインなどだ。

また高等教育段階には、カレッジ（2年制または4年制）と大学、ポリテクニク（企業担当者から最先端の技術・実務を学ぶキャリアトレーニングの専門学校）がある。地域社会に必要な人材を育成するのが、これらの高等教育機関に共通した役割だ。異なる州立大学間での単位の移行や異なる学部に移ることが可能となっている。カレッジの多くは4年制の大学への編入プログラムをもつ。

実践的な学びとして、設計や電気技術などの技術者育成、幼児教育、福祉・介護、調理、美容師など地域にある数多くの仕事は、実習施設などで学べる。教員は、研究者よりも教育に熱心な人が多い。

大学は、入学後に専攻を変更できる。また自分の専攻以外の分野の科目も履修する必要がある。ポリテクニクでは、

地域企業が協力し、講師を派遣。その企業の技術などを実践的に習得できるようにプログラムとなっている。地域で、ある分野の人材が多くなりすぎて雇用率が下がると、そのプログラムは中止され、雇用率の安定が図られるのも特徴の1つ。



セカンダリースクールの場合、学校組織は校長1人に教頭3人体制。スクールカウンセラーは3〜4人、キャリア担当者は1〜2人配置されている。バンクーバーコミュニティカレッジ内の実習用美容室。地元の人も学生に格安でカットなどをしてもらえる。